

第1回シグマ { 研究 } 委員会議事録
 { 専門 }

日時：昭和44年5月26日(月) 11:00-17:40

場所：東京本部(第2会議室)

出席者：百田，五十嵐，大田，白井(小林節雄代理)，鈴木，塚田，坂本，片岡，
 宮坂，大野，森田，桂木，更田，中村，竹腰，飯島，西村，河合，能沢，
 立花，川島。

(配布資料)

1. 第31回議事録
2. 委員名リスト
3. 専門部会名および専門委員名リスト(案)
4. 45年度概算要求内訳表

(議事)

1. 第31回研究，専門委員会議事録確認

(訂正)

| 場 所 | 誤 | 正 |
|------------|-----------|-------------|
| P.1 下から6行 | 前田議事録 | 前回議事録 |
| P.2 上から1行 | FANDC | EANDC |
| P.2 上から9行 | 「JND=ユース」 | 「JNDC=ユース」 |
| P.3 上から5行 | (昭和28年) | (昭和38年) |
| P.3 上から10行 | 含めたこと | 含めることは問題である |
| P.4 上から3行 | (委員長)第4条 | 委員長を削除，第2条 |
| P.4 下から1行 | 当委員に提議 | 当委員会に提議 |
| P.5 上から4行 | 計画費 6,400 | 計算費 6,850 |
| P.5 上から8行 | 1,800 | 2,250 |
| P.5 上から9行 | 1,950 | 1,500 |

P.5 下から5行 京大原子炉実験所木村逸郎氏からの提案の項については百田委員長から，議事録のこの部分は当日の話しの内容と相異

しているように思うとの発言があり、大野委員からも同様の見解が表面され次のように修正された。

〔木村逸郎氏（京大熊取）から熊取からも参加する人があった方がよいのではないかという提案があったが、とりあえずオブザーバーとして参加されることを観迎する〕

2. 委員の発令について（鈴木委員）

5月26日（本日）付で配布資料の通りの委員が発令になる。

3. 専門部会の組織について

委員長から今までの経過についての説明があった。44年度は核データ、炉定数、熱化の3専門部会で実行するという準備会の結論を変更して更めて、幹事会案として核データ評価、核データ情報、炉定数の3つの専門部会を提案したいという趣旨説明があった。

（質疑）

- ・坂本委員：準備会の議事録がない。その結論が簡単に変わる。幹事会の意義等について質問があった。
- ・議事録の原稿は一応出来ているが配布するまでの準備ができなかった。その後、幹事会等で専門部会についていろいろな意見がでて本日の再提案となった旨の釈明があった。
- ・準備会決定の結論を破って新しい提案を行うことについて
 - i) 準備会の結論通り実行しなかったことについての了承。
 - ii) 新提案をとるかどうか。の2点について委員の意見を求めた結果 i) について了承し、ii) 新提案の議論をとり上げることになった。

（桂木）：新提案の趣旨説明を行った。

シグマ委員会全体の仕事についてネットワークを組む考え方である。とくにSCISRSデータを整備評価する情報専門部会を作りたい。

（更田）：桂木委員の説明に

「核データグループでも収集と評価を分けた方がよいという話があった」という点は、同グループでの決定ではない。今までのグループ内での会合では技術的な話は少なく、問題がdivergeしがちであった。

(塚田) : 数値データのプロットなどは専門部会としての仕事の対象となるのか?

(能沢) : 情報という名称が大事なのか、そこに含まれる内容が重要なのか?

一午前中は質問だけにとどめ、午後から討論に入った。一

(飯島) : 情報専門部会について、1委員として考え方、問題点を説明した。

収 集

1. 文献 (実際の収集 (逆過程を含む)
入れ物 (コンピューター) : GIANT の改訂
2. 数値データ (実際の収集 : 問題点となる $X(n, x)$ のみ
入れ物 (COMFORD, SCISRSII 等)

利 用

1. 計算 (評価) したデータの格納, 出版 ($S(\alpha, \beta)$, $Te(E)$ 等)
2. 評論 (例えば BNL325 のような review 型, 但し特定のもののみ)

fast E.P の σ : Res. Integral の標準化

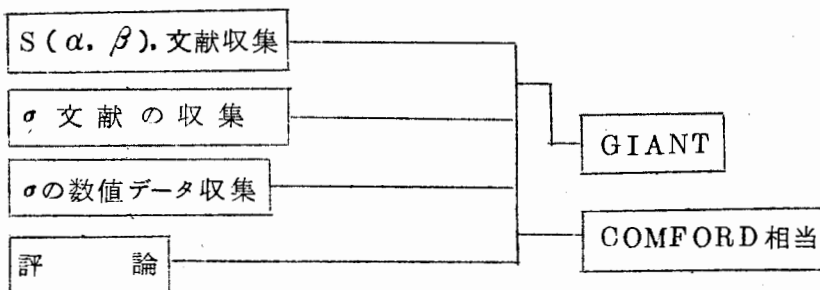
機 能 : 炉定数グループへのクイック、レスポンス

情報の収集

(問題点)

1. 前回承認したテーマに追加要求があり得る。(変更ではない)
2. 運営上、人数が多すぎる (≥ 30 人)
3. 会合を一緒にもてない。

(図式表示)



(五十嵐) : 核データ評価専門部会についての考え方を説明 :

現在の仕事の内容は $(n, r)^{238}U$ の評価でそれに伴うコードの整備も

含む。しかし人数は少数である。Review・Interpretation の面で

情報専門部会と重ってくる。将来は情報専門部会の一部として吸収した方がよい。

(大野) : 新提案は、熱化グループを解散して2つに分けたものであり、要は運営で解決する問題である。組織だけを変えてもよくいかない。

(桂木) : 専門部会の名称は単能がいい。趣旨はデータの整備であった。整備はテーマ名と同じなので避け、情報になった。

このため情勢が少し変わってきた。

() : 評価のまえに収集がある。評価と炉定数の間に情報がある。

(塚田) : 組織改正の必要があったかどうか。頭と尻尾を切ってまとめた感がある。前は縦割、今度は横割。

(委員長) : グループの連けいを密にする必要がある。

i) 組定数 : 熱化と炉定数でやっていた。

ii) 評価収集 : これを核と熱化の両方でやっていた。

() : 収集と評価を切りはなしてうまく行くか、炉定数と核データは前と同じではないか。

() : 評価専門部会 : ワーキンググループレベルの仕事内容ではないか。

() : 評価は委員会で取り上げる問題ではない。むしろ評論だと委員会組織で取り上げるべきである。

() : 情報専門部会には炉物理関係者が少ない。

() : 評価は他人の review からではできない。

また会合の持ち方が問題であろう。

(森田) : シグマ委の目的を炉計算のための Library の作成と了解すると、データを評価して提供することが大事である。

これは up to date で利用し易い形にもっていく urgent を要求である。

これにはデータの Review とか評価が入ってくるので、評価部会と情報部会にそれを期待する。

委員会の性格として、完全な評価、研究的な仕事をするのは難しい。不完全でも止むを得ない。入手したデータの Review は要求される。

(桂木) : 情報という名称が大きいが、委員会は年度毎にその内容にウェイトをつけていく。評価された核データを炉定数に結びつけていく。

(飯島) : プロジェクトではないので、各人に強制できない。

委員会としてやる熱意があるかどうかの問題である。

収集専門部会だけでは人が成立しない。

() : SCISRS データを委員会として全面的に吸収していない。

これをテーマにすれば out put は出るのではないか。

(塚田) : 評価は special side の問題と考えるのか？

(森田) : データは情報部会で収集し、direct に炉定数専門部会に行く。

しかしそのデータの素性がわからないのでこれを知りたい。

ここに評価または Review が入る。これを核データ評価部会に期待している。

本格的な評価は委員会で行うのではなく、研究室的なものである。

() : 評価に関しては現在の核データグループに期待できない。今度の新しい提案の趣旨はいいが、part time でやっている矛盾がでていいる。これをほっておいて部会をつくって、あとはよろしくというのは問題である。

(片岡) : 遮蔽としては、charged particle が必要、secondary 反応のデータもほしい。そこで

i) シグマ委の活動に期待する

ii) 遮へい proper の P.R として情報専門部会に参加したい。

() : Review の内容は？ 一本にしなくてもいいのか？

() : 評価を Review とは分けられない。

(立花) : ENDF があるが、日本の炉定数に結びついていない。

毎年入ってくる核データを処理し、取扱っていくシステムを整備する。

fast 用、thermal 用、shield 用とあっている。

(中村) : 情報部会の目的をはっきりさせる。今使える素性のわかったものを出すグループを強化したい。recommend を出す作業は従来のグループで行っている。文献収集は、各委員がだまってやる仕事である。

(大田) : 炉定数と評価に分け、あとは運営の仕方にまかせる。

具体的目標をとらえて、グループ間にフィード・バックするようにする。

(河合) : 今までの3グループでカバーできない部門があると了解するならば、第4として情報部会をつくったらどうか？

(坂本)：専門部会は作業的要素が多い。パートタイムでやることに問題がある。内容的には今までと変わらない。パーマネントスタッフ計算機などの条件による。

(桂木)：炉定数専門部会でも必要なのはReviewである。

これに対する要求は情報部会でみたされるだろう。

以上の議論からまとめると下記の3案の専門部会が提案されたことになるが、このうち(3)をとることに全員諒承した。

- (1) 核データ }
熱化 } (44年度は従来通り)
炉定数 }
- (2) 核データ }
炉定数 } (情報の内容は核データに含める運営で処理する)
- (3) 核データ評価 }
核データ情報 } (今回の提案で45年度のデータセンタに結びつける)
炉定数 }

続いて各部会長には、それぞれ

- { 五十嵐
- { 飯島
- { 桂木

の各委員が委員長から指名された。

ただし部会間の領域の協定は、部会長間でよく話し合っただけで決めることになった。

4. 専門部会委員について

1) 核データ評価専門部会

浅見(明)(原研), 浅見(哲)(原研), 五十嵐(原研), 鹿取(東大), 神田(九大), 菊池(東大), 中島(原研), 中嶋(法大), 中村(富士), 西村(原研), 八谷(三井造船), 更田(原研), 松延(住友), 村田(NAIG)

2) 核データ情報専門部会

浅見(明)(原研), 浅見(哲)(原研), 綾尾(原研), 飯泉(原研), 飯島(NAIG), 五十嵐(原研), 井出野(原研), 岩城(MAPI), 大久保(原研), 大竹(富士), 大野(原研), 岡本(原研), 河原崎(原研), 菊池(東大), 後藤(原研), 坂本(原研), 関谷(阪大), 千原(原研), 中島(原研),

中嶋(法大), 中村(富士), 中原(原研), 西村(原研), 更田(原研), 水田(NAIG), 山本(日立), 松岡(日立), 山越(船研), 吉村(船研), 加藤(原研), 金森(原研)

3) 炉定数専門部会

安(東大), 飯島(NAIG), 五十嵐(原研), 石黒(原研), 岩城(MAPI), 大竹(富士), 桂木(原研), 川島(PNC), 菊池(東大), 久家(原電), 小林(MAPI), 斎藤(原研), 坂田(原研), 柴(原研), 志村(PNC), 土橋(原研), 東稔(原研), 中嶋(法大), 永山(原電), 中村(京大), 西村(原研), 西村(秀)(原研), 松延(住友), 水田(NAIG), 安川(原研), 山本(日立), 菅原(MAPI)

専門委員の発令に関しては各専門部会の区別は研究所にとって必要でない。したがって各専門部会に属する委員を明確にするためここで議論しなくてもいい。活動に参加される意欲のある方がリストから落ちていなければいい。

所属部会の変更はあり得る。

5. 幹事の指名

中嶋, 飯島, 森田, 西村, 桂木, 五十嵐の6名が運営細則による幹事に指名された。

6. 遮蔽の専門部会

4 4年度は2~3名情報部会に入る。

7. 運営細則の件(鈴木)

前回の修正案の通り運営細則は決定されたかどうか確認したい。

(委員長): 修正案通り決定されたことを確認する。

8. 遮蔽関係の議事録

次回に配布して説明することになった。

9. 45年度概算要求の件

配布資料にもとづいて説明があった。

従来と変わっている点は, 遮蔽ライブラリの作成として500万円の追加がある。外枠という考えで申請しているが, 局, 大蔵を通った段階でもう一度考えることにする。

10. その他

- 1) イスラ会議の報告(桂木) : 次回
- 2) SCISRS-IIのその後(更田) : 次回
- 3) NEUDADAのアナウンス(委員長)
- 4) IAEA meetingのアナウンス(委員長)
- 5) 川島委員の紹介(委員長)
- 6) イスラエル文献2件のアナウンス(委員長)

11. 次回 6月下旬, 7月上旬行方。日時は幹事会に一任する。